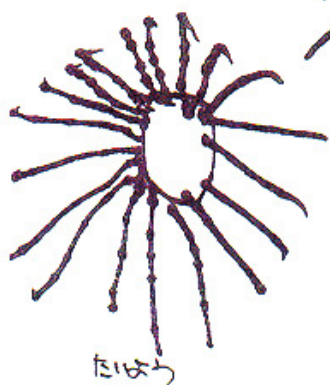
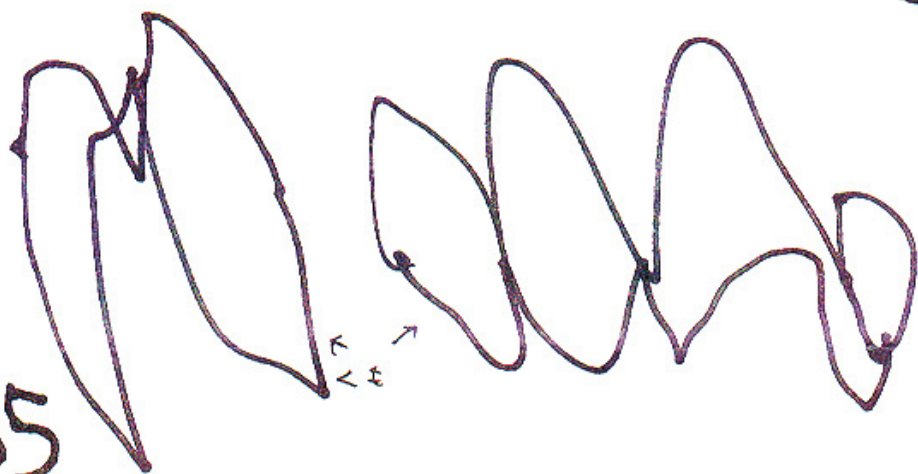


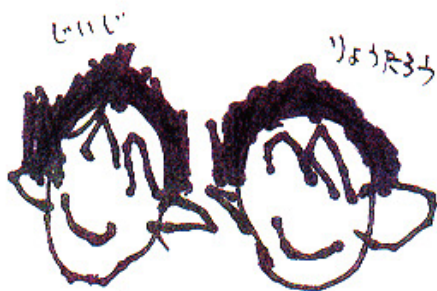
とよ・正 ち  
美肌通信 月号



たいやう



vol.105



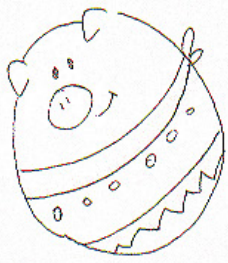
たにい

りやうあき

よつたろ



くるま



# April



4月号のとびたち美肌通信の表紙は、

良いお天気の日におじいちゃん

ドライブに行く絵です。どこにお出かけに行くのかな？ とっても楽しそう!!!

ミニカー（特にスポーツカーが好き♡♡）やプラレールで

遊んだり、走る事や、和太鼓をやる事が好きな男の子が描いてくださいました!

ありがとうございます😊

院長はじめ スタッフ一同

バリエリ 感謝いたします!!



私を含め人は、喜びをおおしく味わっていたり、悲しみや苦しみは避けて通りたいと思いがちです。しかし物事には必ず2つの側面があり、悲しみの様に思える出来事に遭遇したとしても、そこにはそれと同じ位の喜びが隠れている様に思います。その時は辛く悲しい出来事でも長い年月を経て回想すると人生はバランスの取れた恵みに溢れているものだったと、豊富な経験を重ねた人生の先達の方々は皆そんな実感している様に思います。

詩人カール・ジブランは「よろこびと悲しみについて」という詩でこう表現しています。

ひとりの女性が言った。よろこびと悲しみについて話して下さい。  
するとアルムスタフ(預言者のこと)は答えた。

よろこびは、悲しみが仮面を外した姿。笑いの湧き出る井戸は、涙であふれる井戸でもあります。それ以外になにでもありえるでしょう。悲しみがあなたを深くえぐればえぐる程、そこによろこびを満たしていくことができるのです。あなたのふところ酒を湛えるその杯も、陶工のかまどで焼かれたではありませんか。あなたの心を癒すリュートとなったその木も小刀でくりぬかれたではありませんか。

うれしい時は自分の胸の奥を覗き込んでごらん下さい。そうすれば「きつ、以前はあなたを悲しませていたものが今ではよろこびを与えてくれていることに気がつくはず」。悲しいときにも、胸の奥を覗き込んでごらん下さい。そうすれば「きつ、以前は心をはずませていたはずのものに今では涙を流していることに気がつくでしょう」。

しかしなかには、「よろこびのほうが悲しみよりも大きい」と感じている人もいます。「いや、悲しみのほうがよろこびよりも大きい」と思っている人も。私ならこう言うでしょう。よろこびと悲しみはいつも一緒にやってきます。ただ、一方があなたと食卓についでいるとき、もう一方は床についでいるのです。それを忘れないで下さい。

あなたはちようどよろこびと悲しみを載せた天秤のようなもの。釣り合いがとれて揺り動かさずにいられるのは、空のときだけ。

宝の番人があなたを持ち上げて金銀を量るときには、  
あなたのよろこびと悲しみも、それに合わせて上下するのです。

有枝春、訳  
「預言者のことば」め

親は子供には自分よりもより充実した人生(幸福な人生)を歩んで欲しいと願っています。しかし、当の本人からは必死さや本気さは伝わってこないことがあります。そんな時、私は今まで「親だから」という理由で頭から抑えつけるだけでした。そのことから、親子間に歪みや狂りが生じ苦しみが発生してしまいます。

ジブランは「苦しみについて」という別の詩で、次の様に述べています。

苦しみは、そのほとんどが自ら選んだがみの。

苦しみは、あなたのなかの医者が、あなたのなかの病人だ自分を治すために出す苦い薬。

その医者を信じて、出された薬をなにき言わずに飲みなさい。

親も初めての親、子も初めての子を日々実践しています。

親子関係の「苦しみ」は実はそれ自体が大切な良薬であることに気がつく事が重要なのでしょう。

日々子供とどう向きあえば良いか。親とどう関係を保っていくかで悩む人は多いでしょうが、互いに何かを気がかせようとしているのだと思うのです。

それに気がいた時、「悲しみや苦しみ」そのものが「よろこび」であると気がつくのでしょう。

院長、拝